

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	塩尻 英明
視察地	富山県富山市		
調査事項	コンパクトシティのまちづくりについて		
視察年月日	令和5年10月24日		
視察内容	<p>富山市を視察先へと選択した事について、路面電車を活用している点や新幹線の駅が存在する点など旭川市とは異なる都市環境ではあるものの、それらの代替、または旭川市内では浮かばないような発想など、新たな取組みへと繋がる発想のヒントを得られるのではないかという思いがあったなかでの視察である。結論から先に述べると、都市の環境よりも、目的やその過程の想定などの計画づくりが重要だということ強く感じた。</p> <p>富山市では国による立地適正化計画の策定以前から将来の都市形成について考えられており、職員で研究会を構成し、議論を重ねながらまちづくりについて「なぜ必要なのか」という点について120回以上のタウンミーティングを行うなど、市民にもしっかりと理解を得たうえでの事業着手だった。「説明責任」ではなく「説得責任」があるという当時の市長の思いがあったとのことであり、自分の街をより良くしていきたいという強い熱意が伺える担当者の話だった。</p> <p>基本的な方針としては、地域性を除けば立地適正化計画やコンパクトシティと大きく違うことは無い。だが、取組みが早かっただけではなく、取り組みの柱となる内容が明確になっており、概念図として『お団子と串の都市構造』という言葉だけで聞くと他の地域は見捨てられるのかという反発が起こりそうなものだが、これまで行ってきた120回以上に及ぶタウンミーティングにより「将来的には自分の地域も良くなっていく」という将来像を感じられることで、添付資料にもある通り富山ライトレールの整備については8割が『良かった』という反応を示したとのこと。</p> <p>居住誘導地域へ人を集めることには補助金等も活用して順調に進展しているところであるが、満足度の高い理由の一つとして郊外への環境整備も進めており、今後も富山市の取組みは注目していきたいところ。</p> <p>冒頭にも記載した路面電車の有無による旭川市との違いについては、富山市も将来の都市計画の議論の中では、当初は路面電車を廃止してバスへ転換した方が収支としては黒字になるという試算があった。だが、社会的な影響も踏まえたうえで、赤字でも効果が高いということで路面電車の活用を最終的に決定したとのことだった。結果としては路面電車の継続でも黒字になっているようだが、添付資料の通り様々な取組みを行った結果だと言える。おそらく富山市は路面電車を廃止してバスへ転換していても先進都市としての事例として取り上げられる都市となっていたのではないかと。</p> <p>結局のところ、どれだけ真剣に取り組むかということが重要であって、より具体的な計画を持ち、状況の分析や市民との情報共有を行うことで課題解決に向かえる要素はあると考える。そして、そうなるように改めて都市計画についての提案を行っていきたい。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	塩尻 英明
視察地	石川県金沢市		
調査事項	コミュニティバスを活用した地域公共交通について		
視察年月日	令和5年10月25日		
視察内容	<p>金沢市では平成5年から高齢者・障害者のためのモデル交通計画策定調査を始めた。コミュニティバス導入に向けた検討を平成9年から行い、各種検討や調査を行ったうえで平成11年3月28日から此花ルートが運行を開始した。その後、段階的にルート追加を行い現在では4ルートを運行している。</p> <p>ルートの決定についてはルート内を両方向へ走るのではなく、左回りのみの走行として右折をしないルート作成とすることでスムーズな運行を実現した。ここでの検討の際に交通空白地域の設定をバス停から200m以上離れた範囲としたことは、旭川市よりも市側にとって厳しい条件付けであり、より利便性を高める設定となっていたことには驚いた。</p> <p>金沢市には2社の交通事業者が存在するが、通勤時間等はふらっとバスの運行はせず、既存の路線バスとの競合を避け、高齢者や主婦層をターゲットにする明確な目的の下うまく運営を行ってきている。また、1コイン（大人100円・子ども50円）という気軽さやお得な回数券、デジタル回数券を含むICカードの導入により利便性の向上が感じられる。</p> <p>当初は輸入車でノンステップバスを運用していたが、メンテナンスには輸入車特有のコストの高さもあり、平成18年度からは国産車となっている。1台当たりの購入、維持費等の詳細は伺うことはできなかった点については後日確認をしたい。バス停については高齢者に配慮した200m間隔の設定にしたり、ルートによっては自由な乗降車が可能であったり、公共車両優先システムによる信号待ちの解消など、様々な工夫が伺えた。</p> <p>ランニングコストとしては毎年1億円を超える負担が生じているが、かかっている費用以上の社会的価値があることから批判的な意見は来っていない。ただ、人手不足はどこも同じで、運転手不足により運行台数の減少なども行っており、今後の維持を続けるということに関しては大きな課題として残っている。</p> <p>この事業は金沢市全体で行っているのではなく、『まちなか』に限定した運行をしているが、その郊外にはオンデマンドバスやレンタサイクルの活用など、様々な取組を並行して行うことで『中心にいけばどこにでも行ける』状況を生み出しており、人の流れを生み出す原点となっている。</p> <p>年々様々な取組を追加しており、シガーソケット電源ですぐに取り付けられるGPS機能の追加で、リアルタイムにバスの運行状況を利用者が確認できる対応を行うなど、様々な工夫により利用者増へ繋げている。</p> <p>旭川市でも同様な取組は可能であると考えますが、運転手不足やまちなかへの移動需要が本当にどの程度あるのかなど、多くの課題が残っている。ただ、金沢市のように地域分けというところからの発想は旭川市でも活用できるのではないかと考える。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	塩尻 英明
視察地	奈良県生駒市		
調査事項	契約の電子化		
視察年月日	令和5年10月26日		
視察内容	<p>関西で最初に電子契約を導入した自治体として、先進的な取り組みをしているということで生駒市を訪れた。事前にメディアの記事を見ていた通り、市長や担当職員の熱意が強く伝わってきて、頻繁に出る「早く導入した方が良い」という言葉を裏付ける導入成果をお聞かせ頂いた。</p> <p>コロナ禍での電子化が進む中、プロジェクトチームを立ち上げて様々な取り組みを協議しており、電子決裁などほかの電子化と同時導入は混乱を招く恐れがあるとして、添付資料の通り、混乱を招きそうなシステムは導入時期をそれぞれずらして開始したとのこと。</p> <p>生駒市が導入したシステム『クラウドサイン』は当初あったシステムの中で一番セキュリティや利便性が高く、価格も安価であったことで決定したが、現在も電子契約を導入している自治体の大半が『クラウドサイン』である。</p> <p>コロナ禍で人が集まれなかったことも後押しとなったが、令和3年に行った実証実験の結果は添付資料の通りだが、コストや人件費等の費用削減効果は絶大であったが、特に予想以上だったのが民間事業者側の費用削減効果である。事業者側の負担が減るということはそれだけ市の支出を抑えることにも繋がり、発注側も請負側もメリットの大きい結果となっている。</p> <p>一度締結した契約は修正することが不可能であり、セキュリティ面では信頼性が高いが訂正印による訂正等ができず、変更契約を再度締結する必要がある。導入当初は契約内容に不備が多々あり、場合によっては日付の記載を失念するなど、大小様々なミスがかなり多くあったようだ。当時なかった契約検査課を新設し、チェック機能を設けることでほぼミスがなくなったとのことで、より電子契約のメリットが生かされることとなる。</p> <p>導入時には事業者からどういった問合せがあったのか尋ねると意外なことに「操作に関する質問はほとんどなかった」との回答だった。事前に市のホームページで分かりやすい説明動画を配信しており、それが良かったのではないかと担当者の見解だった。また、視察前から気になっていたのだが、自治体が導入しても事業者の方が対応できないのではないかとこの点について、システム上の負担は自治体側がすべて負っており事業者側は登録をしてそのサービスを利用するだけであり、しかも登録さえしてあればどこでもスマホを使って契約を締結することが可能ということだ。</p> <p>その他にも様々なメリットがあり、これを旭川でどのように導入していくかについては考えるまでも無く、すぐにでも導入すべきという結論以外出なかった。担当者の「早く導入した方が良い」という助言の通り旭川市にはすぐにでも導入してほしいものである。導入してほしいというよりも、財政難な旭川市が導入しようとしなないとすれば自分の首を絞めているようなものであり、導入をしなければならぬと言い切っても良いだろう。そのように議会でも議論を進めたい。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。